



「みんなの船」が運河を渡った!

仙台インテグレス+貞山運河

アートノードではフランスを拠点に国際的に活躍するアーティスト川俣正さんとともに、長期的なプロジェクト「仙台インテグレス」を展開しています。今年、川俣さんが取り組んだのは、貞山運河を渡る「みんなの船」の制作。約1週間をかけて完成した船の進水式として同時開催された「貞山運河の船遊び」と新浜フットパスの様子をお届けします。写真:真藤優真

先にある可能性を探る

長期プロジェクトの第1弾は、「津波で橋が流されて困っている」という新浜地区住民の方々の声を受けて、貞山運河を渡る橋の機能を持つ作品として構想された「みんなの橋プロジェクト」。今年、そのプロセスのひとつとして、川俣さんとともにフランスから来仙した学生や在仙の若者たちが「みんなの船」を制作しました。

8月4日には「貞山運河の船遊び」と新浜フットパス2018(主催:新浜町内会、貞山運河研究所)に合流、完成した船の進水式を行い、スタップを含め約80名が集い賑わいました。式ではくす玉割りが始まり、御神酒や塩で安全を祈



船を制作する様子
進水式を準備中の川俣さん

願。新浜町内会の方々の「よいしょ、よいしょ」という威勢の良い掛け声とともに、黒い船が水の上に浮かぶと、「見守っていた参加者から拍手が起きました。」

今回制作した船は、昭和40年代末で地域で活用されていた馬船(うまぶね)から構想されており、対岸へ張ったロープを引き寄せるところで前進します。当日はほかにも、井土浜の住民の方がつくった木造の馬船、開上地区で使われていた手漕ぎの和船「さぐり」も参加しました。

「運河はまちをつなげる印象がある。船に乗って水面に近い視点で移動するのは、とてもおもしろい経験」と川俣さん。来年は、貞山運河から海までの道のりに木道をつくることを検討しているのだとか。「橋をつくるに終わりでなく、その先にある可能性を探りたい。木道を検討しているあたりには、地元漁師さんたちの守り神である「八大龍王碑」と、65年前に海岸林の植樹完成を記念し建立された「愛林碑」のふたつの碑がある。人々が歴史遺産を訪ね、生態系の観察ができる場所になれば」と今後の構想を語りました。



乗り心地を楽しむ参加者



「貞山運河の船遊びと新浜フットパス2018」主催者のみなさんとプロジェクトメンバー



多くの人が見守るなか、いよいよ船出の時!



翌日、メディアアークを会場に「アートノード+ミーティング」を開催。今回の活動について川俣さんが報告しました。

橋と運河が、お互いを生かしあう、世界にこだけしかなような場所

午前中に行われたフットパスのなか、参加者は「新浜のみんなの家」に参集し、新浜地区のみんなとともに活動の感想や今後の展望などを話し合いました。今回、川俣

さんと同行したフランス人建築家のオリビエ・ブデさんは、滞在中にまとめたさまざまなアイデアを発表しました。これまでも、利用者が自主的に使い定義できるような建築物や彫刻作品を制作してきたオリビエさん。遊び心あふれる「完成した船で運河を行き来できるように、船遊びの機能を兼ねた」"あずまや"のようなポットをつくるのはどうだろうか」と提案。地域の方々からは「橋と運河がお互い

仙台七々と「雑がみ」の深い由縁



せんだいメディアアーク1階 オープンスクエアいっぴいに展示された作品の数々!

仙台市の資源物である「雑がみ」紙箱や紙袋などの再生可能な紙資源なのですが、家庭ごみに混ざりがち。それがみに隔を当てるべく、2017年に生まれたのが「ワケあり雑がみ部」。アーティストの藤浩志さんが部長として、雑がみを素材とした造形を行う「雑がみ部」の部活動です。第2期となる今年度は5月に活動を開始し、仙台七夕まつりに重なる8月4日・8日の展示に向けて活動を行いました。その様子をレポートします。

「紙」でつながる、仙台の過去と現在。

「仙台七夕まつり」は、和紙を使った飾りで知られる。紙に深い由縁があるお祭りです。そこで第2期の雑がみ部は、「紙」つながりで七夕時期に展示を合わせました。部活での制作物のテーマは自由ですが、今回は七夕飾りを作る部員も多く、会場はフチ仙台七々の様相。色とりどりの雑がみを使い、アイデアと技を競った飾りや各種作品が会場を彩りました。

部長の藤さんは「雑がみ部」の1期と比べて、土地がもともと持っていた力を融かしてきたことはよかった」とのこと。

実は、雑がみ製紙の七夕飾りは、古くから新しいうり組み。仙台のご高年齢の方のお話では、昔は1年間集めた紙を使って飾りをつくっていました。



雑がみでつくったライオンのお面



部長でアーティストの藤 浩志さん

大家もあつたそうです。その、いまや途切れかけたりサイクルの伝統を市民の手で復活し、祭りの力を融合できたことは大きな収穫でした。

造形、質、量、物語… それぞれの視点でハマった!

七夕飾り以外では、お菓子風の織りかたが、小学生が作った頭にかけられる「宇宙船」、姉妹で作ったおとぎ話の「おとぎ話」、多種多様な作品が生まれました。

藤さんはこの部活について、「一つ一つの時間、つくる態度に価値がある」と語り、部員の方々も制作態度に影響される体験も貴重な展示から話しています。その充実感を展示した方も垣間見ることができました。



雑がみでつくったお流しをガラス面に展示

JOURNAL GALLERY

毎月アーティストをピックアップしてご紹介します

「もっこり」2018

今回は、宮城県在住の漫画家・宮崎夏次さんによる描き下ろし作品を掲載しています。ともするとルーチン化する毎日の生活のなかで、アートと出会うこと、そしてその衝撃を、勢い溢れる鮮やかな画面で表現されています。「街中にある透明なフィルム、線向こう側、はみ出す、滑稽なゆがみ、見慣れた風景に違和感、異物混入、暴発、ナンセンス、あいた穴だけが残る。——宮崎夏次系」

宮崎夏次系 みやざき・なつひこ

1987年宮城県生まれ。在住。宮城県宮城野高等学校美術科を経て、多摩美術大学美術学部絵画科版画専攻卒。第56回まちづてや賞(2009年)一般部門に応募した「赤い朝」で準入選受賞をきっかけに、夕方まで帰るよ(講談社)で月刊漫画雑誌デビュー。キャラクターの描画や構図や機軸を、丁寧かつ詳細に描く作業(作業)から熱烈な支持を集める。最新刊に、高橋伸太郎の絵巻をモチーフにした「たてまよくて絶えぬ心」がある(小学館、2018年8月発行)のほか、「猫黄くん」1巻(KADOKAWA、2018年9月28日発行)がある。

JOURNAL | art node | artnode.smt.jp

アートノード ジャーナル 4号 2018年10月9日 発行
編集長 | 甲斐賢治(せんだいメディアアーク)
編集 | 渡邊唯平(せんだいメディアアーク) / 磯橋美奈(内線子(communa))
アートディレクター | ティエリ | homescodesign
印刷 | 株式会社文芸美術印刷

お問い合わせ | 企画・発行
せんだいメディアアーク(公益財団法人 仙台市民文化事業団)
〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春町2-1 TEL: 022-713-4483
E-mail: artnode@smt.city.sendai.jp / URL: http://www.smt.jp

アートノードとは、「優れたアーティストのユニークな視点と仕事」に多くの人に関わり、熱のある「アートの現場」を協賛し創出する事業です(2016年度より)。
本誌ジャーナルは、アートノードの選定を広く伝えるとともに、アートが東北の人々・課題と接続するための読者提供を行います。
※「アートノード」は「せんだいメディアアークプロジェクト」の総称です。

せんだいメディアアーク
sendai mediaarque
© 2018 sendai mediaarque. All Rights Reserved. 本誌記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。この内容はクリエイティブ Commons

TRUNK

hysion temporary human

瑞巖寺・埋木書院「千年のしらべ」レポート

国宝瑞巖寺の、約10年に及ぶ平成の大修理」の終了を記念し、「千年のしらべ」瑞巖寺埋木書院 日鑑賞会を8月26日に開催しました。

今回特別公開された「埋木書院」は「八木山」の地名でも知られる仙台の遺産家八木久兵衛氏が、明治22年に北上川から引きあげられた直径約1.5m、長さ約30mの巨大な川埋木を小割せ、できるだけ大きなまを用いて明治11年に建設した木造平屋の建物。昭和18年に八木氏から瑞巖寺に寄進されました。天井板、柱、長押、敷居から戸障子の棧に到るまでこの川埋木の構一本からつくられています。「埋木」とは、長崎地中に埋もれた樹木をこのこと、数百年埋もれ炭化した山埋木(百年特産工芸品「埋木細工」の原料)と、数百年「数千年

高らずに水没していた「川埋木」がありましたが、昔から知られ、貴重なものとして、全国に希少・貴重な埋木を、埋木研究家の松浦丹次郎さん、今回の企画者である美術家の伊達伸明さんが登壇しました。「千年のしらべ」というタイトルには、千年を超える木のドラマを調べるたい、またそのこだわった調べるの音色(調べ)も聴いてみたい、という方々の思いを込め、埋木職人も減り、このまま埋木という存在自体が埋もれてしまおうかという今だからこそ、埋木書院はさまざまな歴史のページを思いつづける重要な遺産を、思いつづける」と話す伊達さん。イベントでは、伊達さんと2種類の埋木でつくったクイズで、「大きな古時計」を演奏し、参加者は埋木の中に存在する悠久の時間を感じながら、その音に耳を傾けました。

立ち上りの技術 vol.3 展覧会 とある窓

《開催日》2018.11.2(金)~12.24(月)の月開館
《展示時間》土日、12.24(月)のみ開館 13:00-20:00 / 入場無料

《観覧イベント》
※イベント開催中は展覧会を見ることができませんので、予めご了承ください。

- ワークショップ「あなたの窓の物語を書く」 11/4(日) 14:00-17:00 無料 自分に関係のある写真やイラストをもちより、参加者同士で物語を書きます。
- アートエト「開いた風景を描く」 11/18(日) 14:00-17:00 / 500円 参加者同士で窓辺の風景を語り合いながら、それぞれがイメージした風景を絵で表現します。

イベント名、お名前、ご連絡先をお伝えください。
Eメール:artnodeTRAC@gmail.com
TEL:022-397-7256(金土日13:00-20:00)

《オグストーク》11/10(土) 19:00-21:00 / 500円 建築史・建築批評家の五十嵐太郎さんによる「窓学」に関するワークショップのち、本展を企画したNOOKとのクロスワークを行います。

《つづいて》11/28(水) 19:00-21:00 / 500円 「風景ってなんだろう?」をテーマに、対話を通してそれぞれの考えを深めます。

《おはなし私「窓の窓、窓の窓」》12/8(土) 17:00-19:00 / 500円 本展にご協力いただいた笹谷由美さんによる、暮らしの風景へのまなざしについてお聞きします。

●キャラクター 12/16(日) 14:00-16:00 無料 写真家の森田具海さんとともに、本展を鑑賞します。

立ち上りの技術 | やわらかな土から | TRACを運営する土と軸にしているコンセプト。築屋にこだわる心から、おける「土」を持つこと、マテリアルの立場に立つことなどから「土」が持つ「土」の表現に注目したリサーチを行い、それらで得られた知見を批評、検証し、そのなかで現在の東北にも応用可能な表現の技術を見出します。また、それら展示して聞いていける。展示の場から考える「土」や「土」が持つ「土」を聞いていける。

やわらかな土から TRAC(東北リサーチとアートセンター)の共同運営チーム。メンバーは、地域と協働しながら記録をつくる組織一般社団法人NOOK、仙台市でのアーカイブ活動をした市民協働を行う3.11をモチーフに、建築のある人々やアートをつなぐ中間支援組織であるNPO法人エイブル・アートセンターの3団体です。

TRAC Taketa Research-based Art Center 東北リサーチとアートセンター
仙台市青葉区大町2丁目3-22第五南水ビル1階(地)・放浪西線 大町西公園 駅東側1分
仙台市・東部の歴史・資源・課題とを掘り、アートや表現つなげる活動と交流のための拠点です。せんだいメディアアークが地域で展開するアートプロジェクト「アートノード」事業の一環です。

スタジオ開墾(仮) NEW!

運営:協同組合卸商センター(以下、卸商センター)

能-BOXのお隣で「イベント倉庫 ハトの家」として、時折舞台公演などに使用されてきた遊休倉庫を、アーティストやものづくり系クリエイターのためのシェアスタジオとして活用するプロジェクトが今年度からスタート。現在、どうほかきんどでいよいよ、1階には短期利用者向けの作業スペースのほか、展示・イベントスペース、カフェ、ショップを備え、2階は長期利用者用のスタジオとなる。運営ディレクターには青葉区大手町でGallery TURNAROUNDを運営する関本茂哉氏を迎え、来年1月から試運転期間がスタートする見込み。なお、名称の「スタジオ開墾」は、英語の[culture]が「耕す」を意味するラテン語に由来することから命名。「耕すことは文化を育てること、そして人をつくること」をモットーに、利用者とともに成長していく場となることを目指している。

シェアスタジオ 利用者募集
施設2階の定期シェアスタジオエリアの長期利用者(2019年1月)を募集いたします。ご利用希望の方は、必ず説明会を見学へご予約のうえ、ご参加ください。

- 対象:アーティスト、プロダクトデザイナー、木工職人、ものづくり系作家など、大型スタジオを必要とする方。電動工具を使った各々の作業ができる場所をお探しの方。
- 説明会&見学会開催
①2018年12月7日(金) 19:00-20:00
②2018年12月8日(土) 10:00-12:00
③2018年12月8日(土) 13:30-14:30
【申込方法】メールアドレスを「シェアスタジオ説明会参加」とし、以下を明記の上、会場へお申し込みください。氏名(ふりがな) / 携帯電話番号 / メールアドレス / 説明会参加日時 / その他、事前に質問等は明記してください(回答に説明会担当となります)【申込先】info@tohokuakindodesign.jp

詳細は、ウェブサイトをご確認ください。
http://tohokuakindodesign.jp

※「とうほくあんどでいーじ」は仙台市と協同組合卸商センターの協働事業です。

能-BOX

運営:公益財団法人 仙台市民文化事業団
仙台市に寄贈された個人所有の複合型遊休倉庫を、卸商センター所有の倉庫を改装して事業し、社会性の高い文化施設として、2011年にオープン。能をはじめ伝統芸能と日本の歴史と土地に根ざした舞台芸術を身近に伝える空間で、10-BOXの別館として運営中。

卸町会館
5F TRUNK | CREATIVE OFFICE SHARING
運営:卸商センター
卸商センターの組合会館5階にあったビジネスホテルを改装し、2010年に誕生したクリエイターのためのシェアオフィス。フランスのデザイナー、カメラマン、編集者、小規模な建築事務所、ウェブ制作事務所などのクリエイターが、ホテルの歴史を残した完全個室に入室し日夜仕事に励んでいる。

B1F 音楽工房 MOX
運営:卸商センター
せんだい演劇工房10-BOXのオープンを受け、卸商センターの「新しいまちづくり構想」のもと、組合会館地下階を改装し2004年に誕生した音楽スタジオ。市内トップクラスの音場と最高の音場を採用したつづきの練習室を備えており、プロユースにも対応。

OROSHI MACHI

ほろせ
卸町公園
サンフスタ(展示場)
北1入口
イオン
地下鉄東青線 卸町駅

卸町 INFO
地下鉄東青線で仙台駅から卸町駅までの乗車時間はわずか9分!そこから各施設までは徒歩10分圏内。

せんだい演劇工房 10-BOX

運営:公益財団法人 仙台市民文化事業団
卸商センターの組合会館5階に2002年に開設した、演劇や舞台芸術のための施設で卸町に初めて誕生した文化施設でもある。「試しながら」の演劇空間として、また、仙台の発展の発信と交流の場として、多くの演劇事業を支援している。2012年度には「せんだい演劇工房」を創設し、応募作品をまとめた冊子の発行などを通して、優れた作品の輩出に貢献している。なお施設名は、大小さまざまな10の部屋を有することに由来。